

第6回二本松市民 放射線被ばく量調査結果報告会

獨協医科大学国際疫学研究室福島分室室長

准教授 木村 真三

平成26年1月26日(日)	10:00~12:00	場所：大平住民センター
2月15日(土)	10:00~12:00	場所：杉田住民センター
2月22日(土)	10:00~12:00	場所：岩代保健センター

目次

- 1 椅子型WBC(ホールボディカウンター)測定概要
- 2 椅子型WBC再測定概要
- 3 今後の方針

1 椅子型WBC測定概要

(1) 測定概況

《測定対象者》 平成23年度：先行地区
平成24年度：小中高学生及び22歳以下

《測定機器》 平成25年度：23歳以上

機器メーカー：

①安西メディカル株式会社製(弘前病院より譲渡)

②ウクライナ製(H25年8月下旬より測定開始)

測定場所：二本松市若宮2丁目69番地 放射線被ばく測定センター

測定時間：10分間

検出下限値：

①セシウム137(250ベクレル) セシウム134(200ベクレル)

②セシウム137(250ベクレル) セシウム134(250ベクレル)

※平成25年10月19日より、土・日曜日の測定を開始

(2)測定結果概要

市WBC測定状況

(平成23.11月～25年11月測定分)

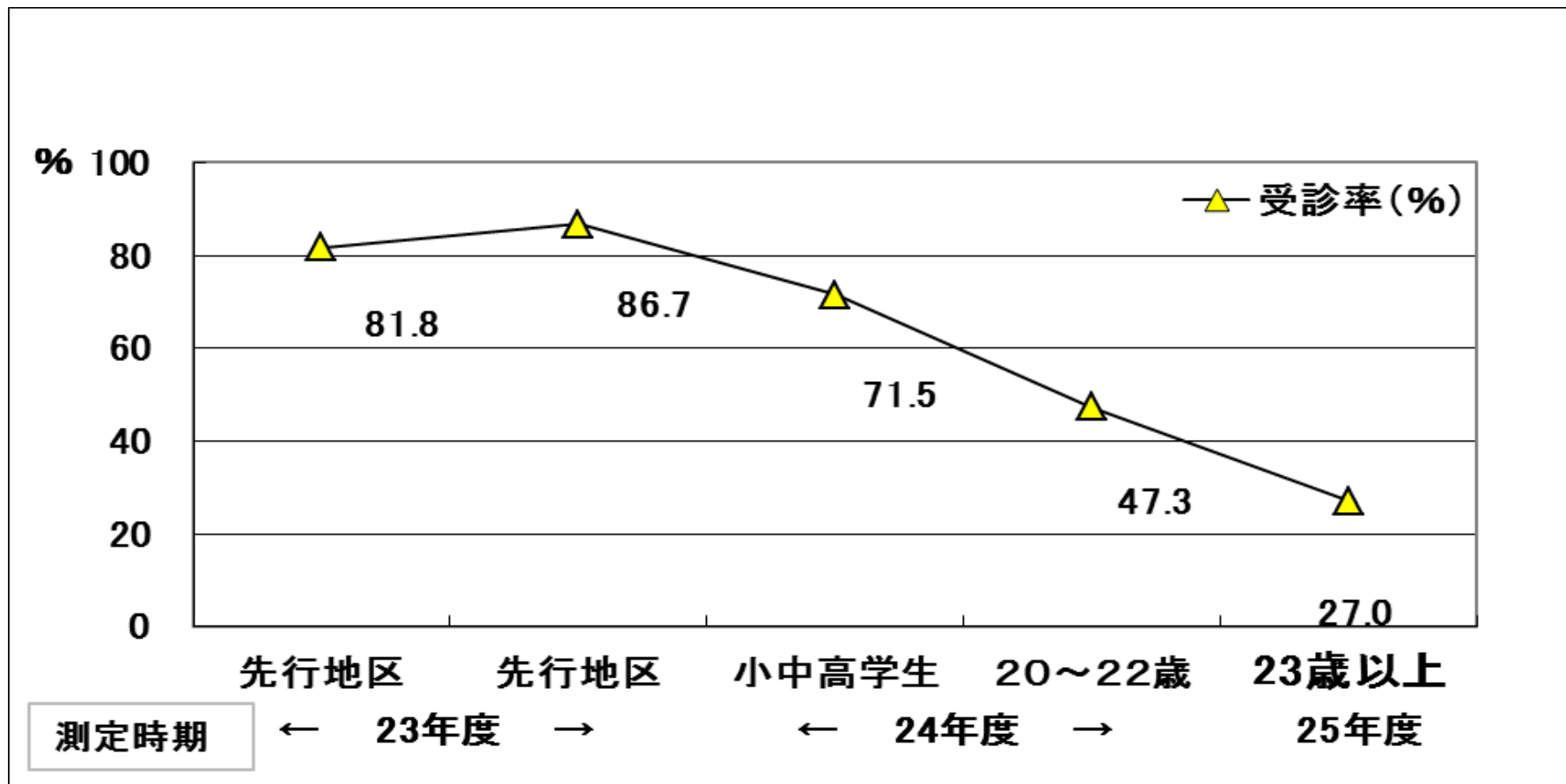
表1

測定月日	対象	通知数	測定数 (人)	受診率 (%)
H23.11.10～H24.1.20	先行地区	1,202	983	81.8
H24.2.6～3.31	先行地区	1,115	967	86.7
H24.4.1～H25.2.17	小中高学生	5,970	4,270	71.5
H25.2.18～3.31	20～22歳	1,537	727	47.3
H25.4.1～11.30	23歳以上 《主な対象地区》 石井・大平・杉田 小浜・下川崎・上川崎 渋川・若宮・松岡・金色 亀谷・根崎・竹田	19,616	5,298	27.0
計		29,440	12,245	41.6

市WBC受診率の推移

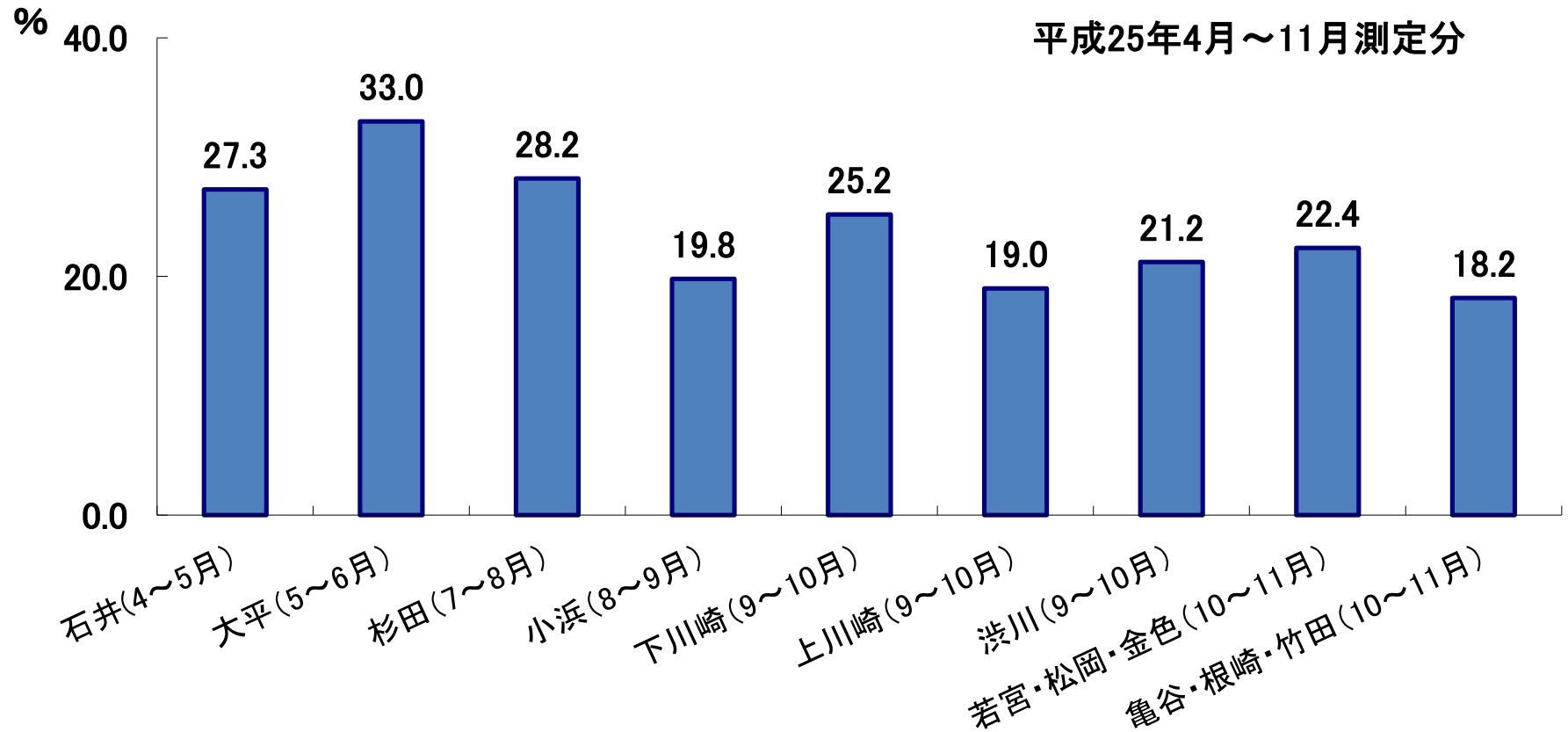
グラフ1

(平成23年11月～平成25年11月測定分)



グラフ2

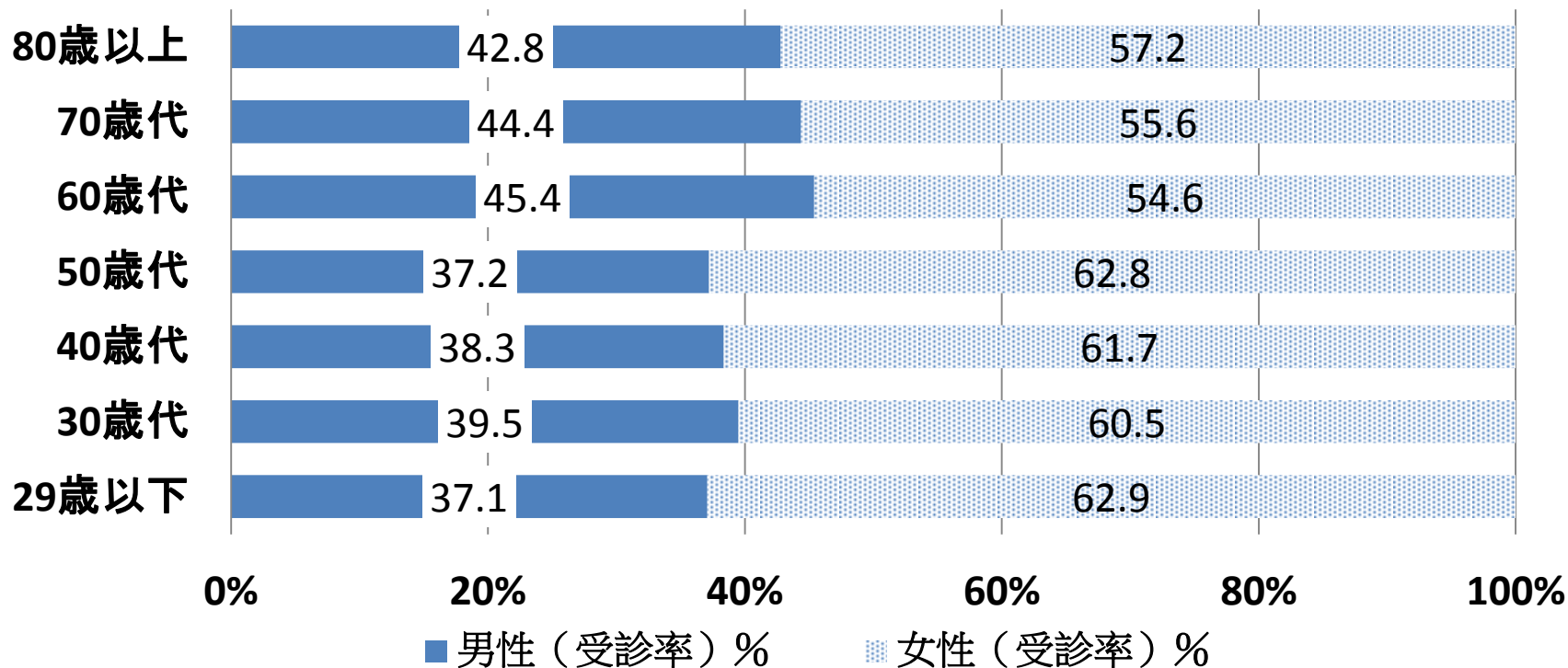
23歳以上の方の地区別WBC受診率



グラフ3

受診者の男女比

(平成25年4月～11月測定分)

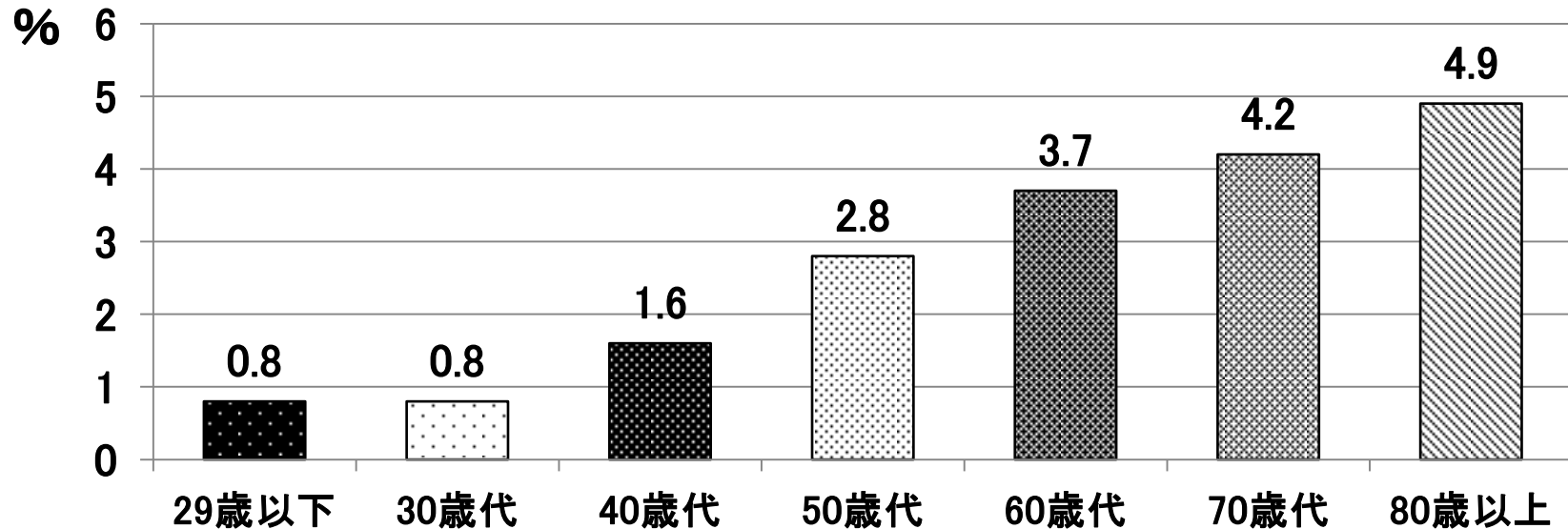


※「29歳以下」の年度測定していた22歳以下の未受カテゴリーには、本来、対象である23歳以上の方から含めることとなりますが、特例として平成24診者が少数いらしたため、その数も「29歳以下」のカテゴリーに含めております。

年代別 検出者の割合

グラフ4

平成25年4月～11月測定分

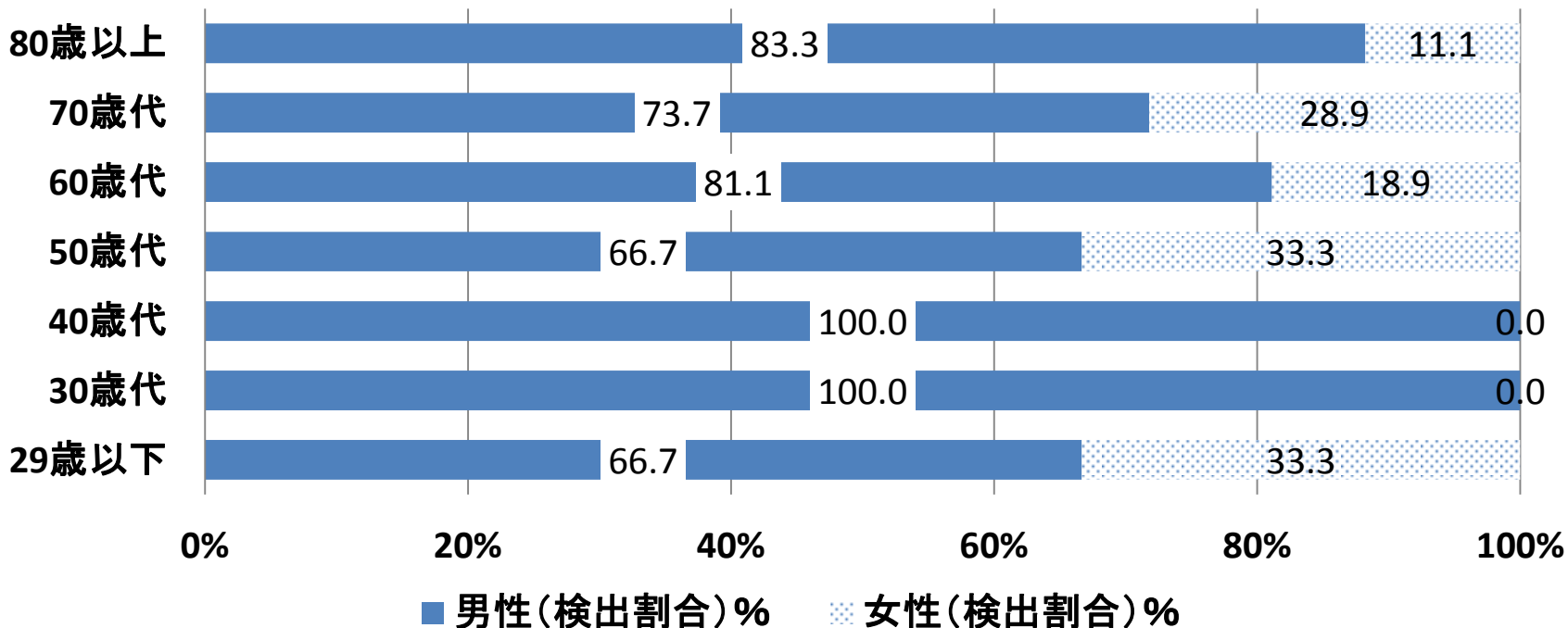


※「29歳以下」の категорияには、本来、対象である23歳以上の方から含めることとなりますが、特例として平成24年度測定していた22歳以下の未受診者が少数いらしたため、その数も「29歳以下」の категорияに含めております。

グラフ5

検出者の男女比

平成25年4月～11月測定分

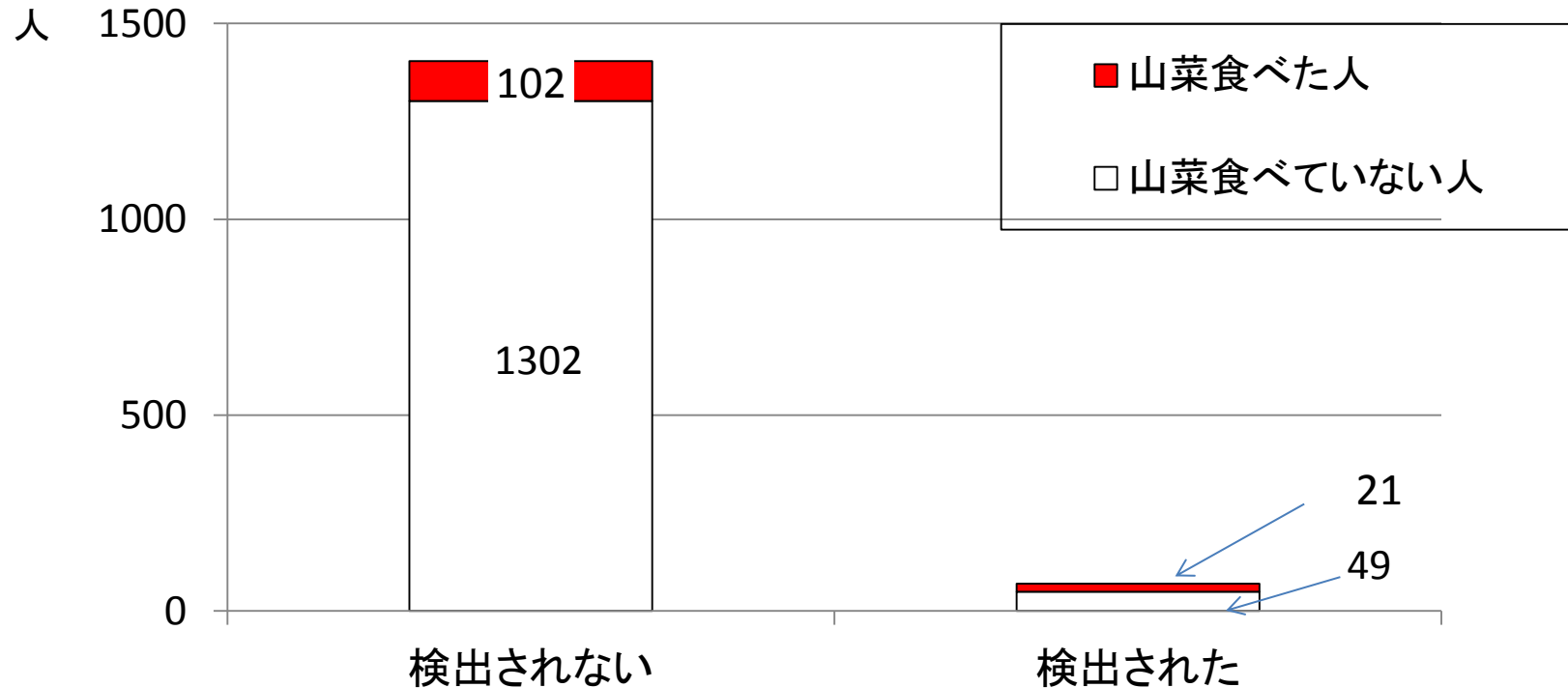


※「29歳以下」の категорияには、本来、対象である23歳以上の方から含めることとなりますが、特例として平成24年度測定していた22歳以下の未受診者が少数いらしたため、その数も「29歳以下」の категорияに含めております。

グラフ6

山菜摂取状況

平成25年4月～6月測定分



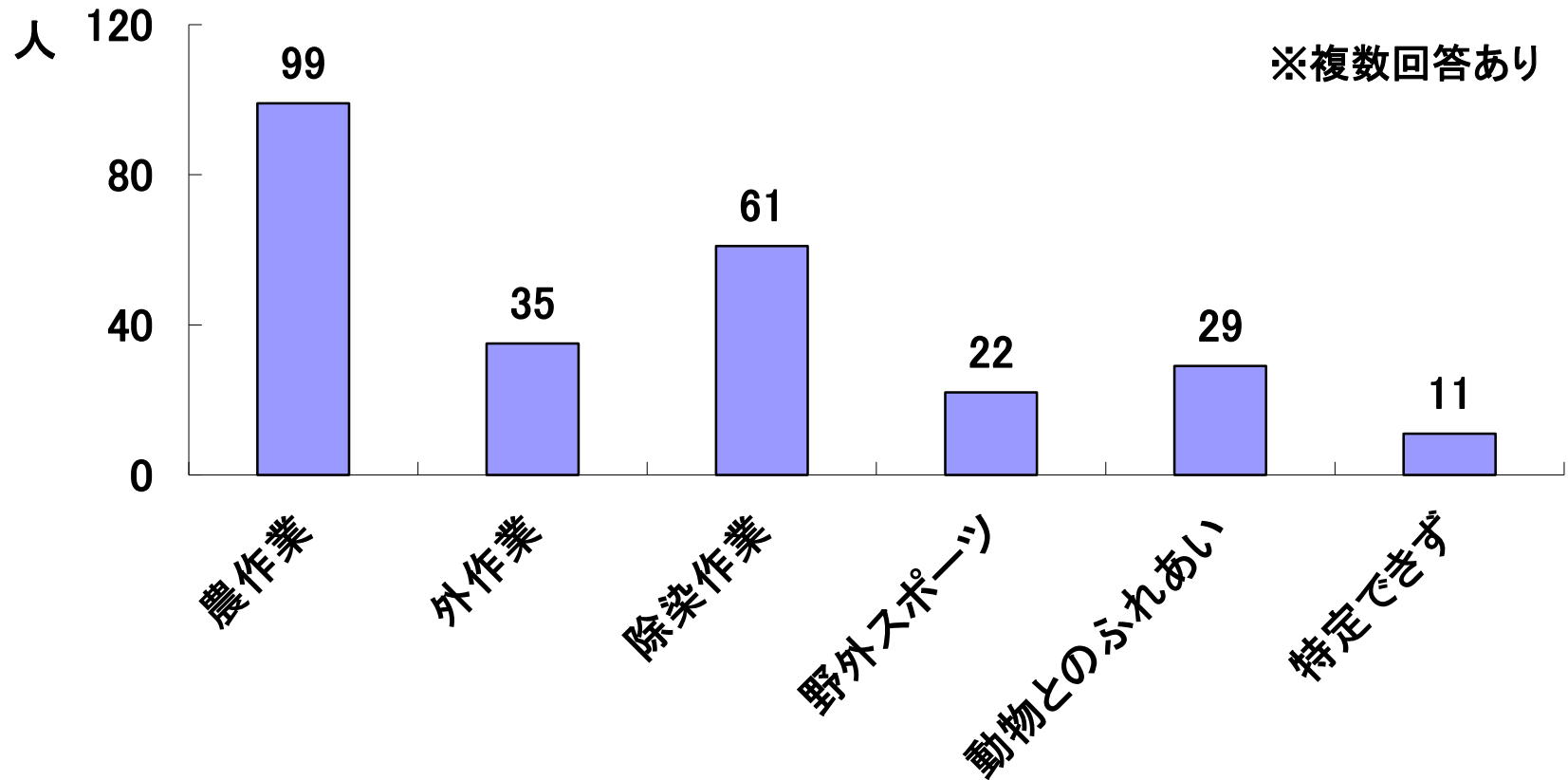
(第5回報告会資料より)

検出者の行動調査結果

グラフ

※市放射線被ばく量調査問診票より

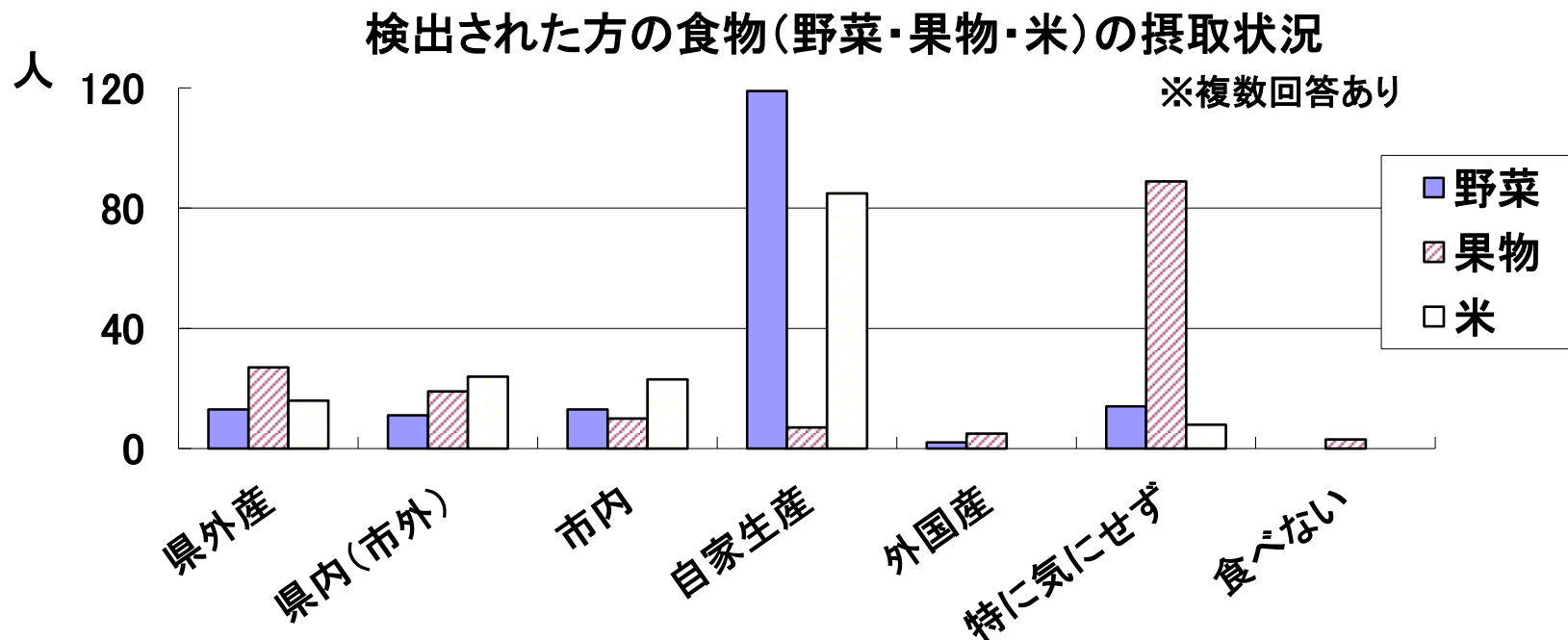
平成25年4月～11月測定分



検出者の食物(野菜・果物・米)の摂取状況

グラフ8

※市放射線被ばく量調査問診票より 平成25年4月～11月測定分



※「米」に放射性物質が出ているわけではなく、自給率の高さに起因するため、「米」が 内部被ばくの原因ではありません。

検出者の自家野菜摂取及び測定状況

表2

※H25.7月～11月再測定された方(延べ人数)

自家野菜 の摂取	人数	割合	測定行動	人数	割合
食べてる人	177	77.3%	すべて測定	48	27.1%
			一部測定	66	37.3%
			未測定	48	27.1%
			わからない	3	1.7%
			未記入	12	6.8%
			計	177	100%
食べてない人	52	22.7%			
計	229	100%			

2 椅子型再測定概要

《測定概況》

- ・対象者 : 平成25年4月～11月初回測定者の内
 - ①セシウム137・134が、検出下限値以上の方 : 153名
 - ②アドバイザーの指示により再測定が必要とされた方 : 1名
(暫定結果は検出限界以上であったが、再解析の結果NDであった方)
- ・測定間隔: 測定後、アドバイザーにより再解析を行う。
再解析の結果①となった方へ再測定の案内を実施。
現在1ヵ月後に再測定実施
- ・測定機器・測定方法: 椅子型WBCに同じ
測定技師より再度生活状況の問診を行う。

※再測定が複数回に及ぶ場合は、ご本人の希望によりアドバイザーによる個別相談を行う。

表3-1

WBCの概念図

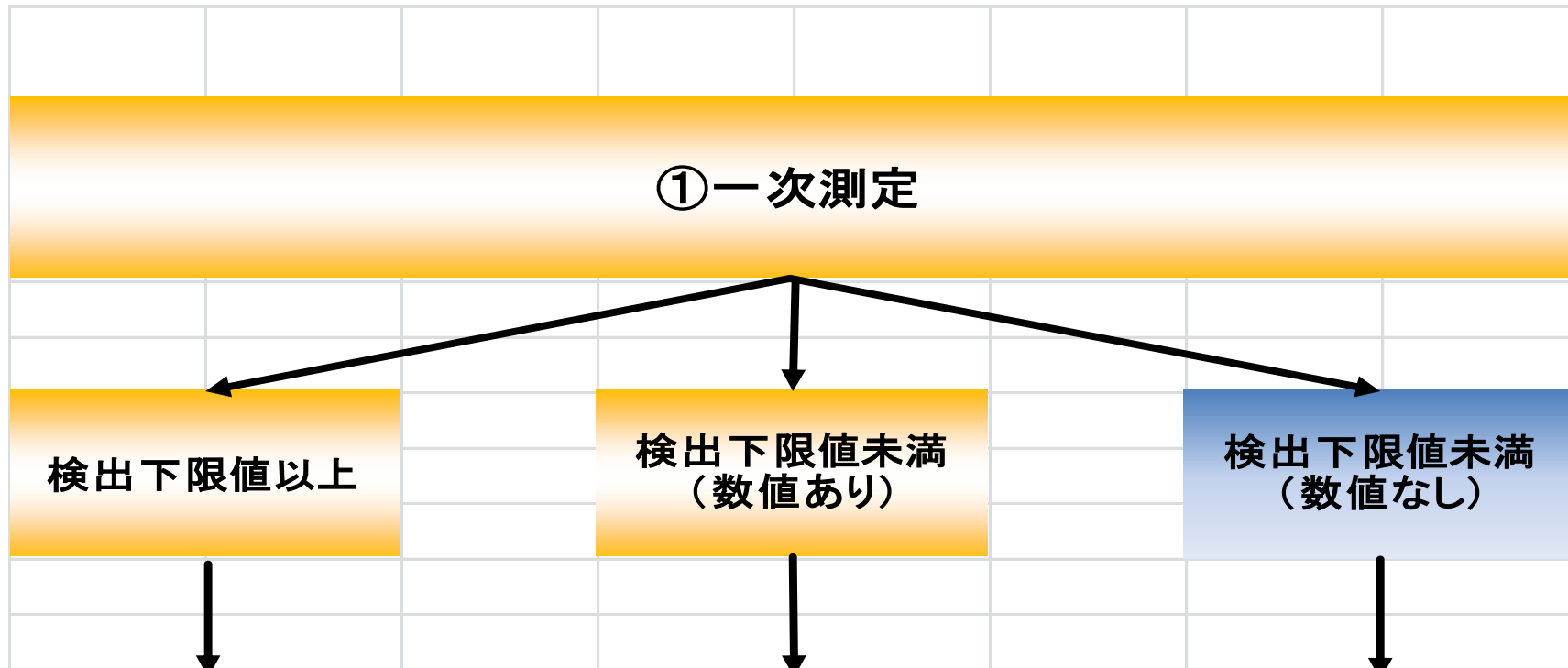
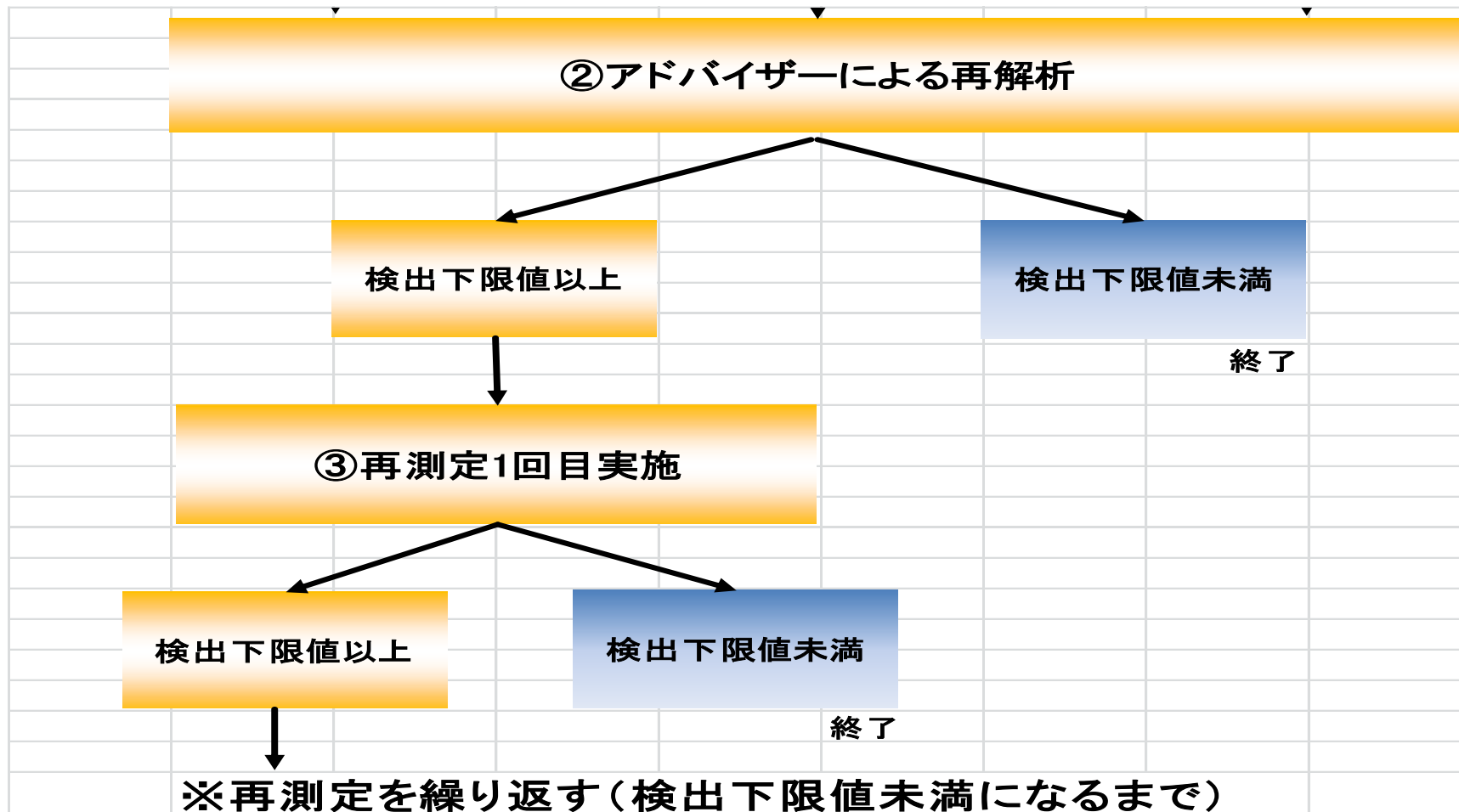


表3-2

WBCの概念図 その2



3 今後の方針

「放射能汚染から市民を守るための健康管理計画」より

(1) 健康管理対応 1mSv／年を目指す

- ① **被ばく量管理** 市民健康手帳の配付(H24年度配付)
25年度は出生者に配付。手帳活用のすすめ。

② **放射線学習会**

平成25年度 ○市民を対象に 市放射線アドバイザーの講話、グループワーク
テーマ「知って 学んで 伝えあおう」～放射能から大切なものを守るために～
※平成26年度も引き続き、実施予定

③ 健康診査の充実

対象年齢の引き下げ 30歳⇒19歳以上者

検査項目の充実

- ・血液検査(白血球・腎機能等)項目追加

自己負担金の軽減

- ・3割負担⇒1割負担へ 等

④ 妊婦リフレッシュ事業

市内16施設(岳温泉等)と契約

- ・妊娠期間中に宿泊費補助券(1枚5000円)を10回利用可

⑤ 乳幼児リフレッシュ事業

親子バス旅行の経費補助事業

- ・バス借り上げ料、入場料その他施設料、保険料の補助
- ・対象は、幼稚園(公立12、私立5)・保育所(公立7、私立8)

(2) 被ばく量調査

① 個人積算線量計

- ・年1回測定継続
- ・測定後の高値者への詳細調査(面接・各種測定)

② WBC調査の継続

- ・市民の測定 H25年4月～ 23歳以上の測定実施

1. 空間線量測定の結果で順次測定を行う

※詳しくは災害対策情報等にてお知らせいたします。

- ・平成26年度は、子どもの2巡目のWBC測定を予定しております。

《分析依頼》 茨城県立医療大学 教授 佐藤 斉 先生
 獨協医科大学 准教授 木村 真三先生